

写真で読み解く 都道府県別 方言大辞典 目次

監修のことば 3
この辞典の使い方 4

方言って何だろう？ 6

方言はどのようになっているの？ 8

日本の方言はいくつに分けられるの？ 10

発音やアクセントがちがう！ 12

ことばや文法もちがう！ 14

東西の方言にはどんなちがいがあるの？ 16

コラム

同じ名前でもこんなにちがう！

くらべてみよう東西の料理 18

第一章

見て楽しい 知って楽しい 身近な方言のことば



四十七都道府県の「あいがう」 20

見つけよう身近な方言 「学校」 24

見つけよう身近な方言 「家」 26

見つけよう身近な方言 「まち」 28

共通語とちがう意味で使われる方言 30

コラム

地域ごとの

「が」め「な」め「の」歌詞がちがうのは 32

第二章

都道府県別 方言辞典



北海道 34

青森県 36

岩手県 38

宮城県 40

秋田県 42

山形県 44

福島県 46

茨城県 48

栃木県 50

群馬県 52

埼玉県 54

千葉県 56

東京都 58

神奈川県 60

新潟県 62

富山県 64

石川県 66

福井県 68

山梨県 70

長野県 72

岐阜県 74

静岡県 76

愛知県 78

三重県 80

滋賀県 82

京都府 84

大阪府 86

兵庫県 88

奈良県 90

和歌山県 92

鳥取県 94

資料

方言のいままでとこれから 129

この本で紹介している方言一覧 130

日本の昔の地域区分 132

方言について調べよう・考えよう

方言について調べよう 134

方言について知るための参考文献 137

方言のことばぐいん 138

用語ぐいん 142

監修のことば

方言は、地域によることばのちがいです。旅行先で地元の人どうしの会話を聞いて、また、ちがう都道府県から引越してきた転校生と話していて、「あれっ？自分とは話し方がちがう。」とか、「知らないことばを使っている。」と思ったことはありませんか。あなたの感じたそのちがいが、まさに方言なのです。

あなた自身や身のまわりの人たちが、方言を話しているはずですよ。それは何とよばれる方言でしようか。同じ都道府県でも、地域によって方言は異なります。自分のくらす地域の方言のことばや特徴を、この本で調べてみましょう。

また、自分にくらす地域とはべつの地域の方言にも、目を向けてみてください。自分の話している方言とどんな共通点があり、どんなちがいがあるでしょうか。ことばだけでなく、発音やアクセント、文法のちがいにも注目してみましょう。「おもしろい言い方だな」「聞いたことのないことばだな」と思っただけですませず、この本を開いて方言について調べたり、じっくり考えたりするとよいと思います。そして「なるほど、ことばにはこんなしくみがあって、このちがいが方言なんだ。」と気づけば、それは方言博士への第一歩です。

この本には、各都道府県の方言がすてきな写真とともにのっています。おいしい食べ物、きれいな景色、はなやかな祭り……あの都道府県に行ったら、こんな景色にこんなことば、と想像をめぐらせながらページをめくるのも楽しいですよ。

コラム

地域ごとのちがいがわかる！

方言地図を見てみよう・活用しよう 128



国立国語研究所教授 大西拓一郎

方言って何だろ？

ある地域で話されている独特のことを、方言といいます。日本には、たくさんの方言があり、それぞれに豊かなことばの世界が広がっています。

●地域によって異なることば

日本では北海道から沖縄まで、多くの人が日本語を話しています。しかし、みんながまったく同じように話しているわけはありません。たとえば「片づけ」を、東地方では「かたず」と言いますが、近畿地方や九州地方では「なおよす」と言います。「よみもの」は北海道や九州地方では「よきもの」、「長野県や山梨県では「もろこし」、「近畿地方では「なんば」や「なんばん」などよばれています。



このような、その地域で使われている独特の単語を「方言」とよびます。しかし、地域によって異なるのは単語だけではなく、発音やアクセント、文法なども地域によって異なります。たとえば東京都では「橋」は前の「は」を低く、「し」を高く発音しますが、京都府では「は」を高く、「し」を低く発音します。



こうした発音やアクセント、文法、単語など、すべてをふくめ、ある地域で話されていることばのことを「方言」と言います。私たちが「大阪弁」や「博多弁」のようないくつかの方言を学んでみましょう。

●共通語との使い分け

方言はその地域特有のことばなので、ほかの地域の人には通じないことがあります。異なる方言を話す人同士でも会話ができるように、使われているのが共通語です。全国どこでも、だれにでも通じることばで、東京都中心部のことばがもとになっています。多くの人が地元の人と話すときには方言、ほかの地域の人と話すときには共通語というように、二つを使い分けています。

標準語とよばれる、公の場や改まった場で使うことばもあります。「理想的な日本語」とされ、こちらも東京都中心部のことばがもとになっています。共通語と同じ意味で使われることもあります。

●なぜ方言を学ぶの？

共通語の広まりや、方言を矯正しようとした昔の政策（1912）の影響などにより、方言は以前ほど使われなくなっています。しかし、私たち人間にとって、ことばはコミュニケーションの基本です。人はことばによって自分の考えや知識、感情などを表現し、相手の考えや気持ちをくみとることで社会を築いてきました。異なる地域の人と話すために共通語はかせないものですが、長いあいだ地域の人の心をつなぐ、くらしを支えてきたのは方言です。



方言には、その地域の歴史や文化などが反映され、ものの感じ方、考え方も強くつながっています。自分がくらす地域の方言を学ぶことは、ことばの豊かさにふれ、地域の自然や歴史、習慣、文化などを学ぶことにつながります。また、ほかの地域の方言を知ることで、自分たちとは異なる世界の感じ方、考え方にふれることもできます。豊かな方言の世界を、いっしょにのぞいてみましょう。



あそこにも！

見つけよう 身近な方言

ここにも！

わたしたちのくらしとともにある方言

方言は、「生活感」に敏感に感じているものではないですね。その地域でくらすなかで自然と身につく、日々のコミュニケーションを豊かにしてくれるものです。

ここでは学校、家、まち、それぞれの場面でよく使われていることばを取り上げ、方言の例を紹介しています。共通語やほかの方言とのちがいを比べてみましょう。また、自分がくらす地域ではどんなふうに言っているか、思い出したり、調べたりしてみましょう。

*ここでは話されている地域として取り上げているのは、代表的な地方や都道府県です。都道府県のうち、一部の地域でのみ使われていることばもあります。

ここでは学校や家、まちで使われる、身近な方言の例を紹介します。

学校

掃く

九州地方
はわく

がんばれ！

山形県 まっきれ！
熊本県 がまだせ！
沖縄県 ちばりよー！

体育座り

北海道・東北地方 安座
関西地方 三角座り

水やり当番

長野県・群馬県
水くれ当番

ふぎける

宮城県 おだつ
山梨県 わにわにする
岡山県 ちばける

机を運ぶ

近畿地方、四国地方
机をかく
机をつる
東海地方など

友だち

青森県・秋田県 けやぐ
関西地方 つれ
沖縄県 どうし

仲間に入れて

岩手県 はめて
近畿地方 よせて
九州北部 かてて

じゃんけんのかけ声

関東地方 ちったった！
関西地方 いんじゃんぽい！
鳥取県 やっきっきー！

おにぎって

大阪府 でんつき
近畿地方・中国地方など
おにぎと

恥ずかしい

東北地方・北陸地方 しょし
岐阜県 こわい
佐賀県 ちゃーがつか

「東北地方・北陸地方」ズック
「和歌山県」バレエシューズ
「北海道・近畿地方・九州北部」上靴

「静岡県・関東地方」線引き
「関西地方」すし

「宮城県」シャッシュ
「宮城県」ジャス

山形県

県内の主な方言

山形県の方言は大きく二つに分けられます。日本海に面した庄内地域で話されている庄内方言と、内陸部で話されている内陸方言です。さらに内陸方言は、北部、中部、南部でそれぞれ話されている最上方言、村山方言、置賜方言の三つに分けられます。

連なる山々によって行き来がしづらかったことから、庄内方言と内陸方言ではアクセントが大きく異なるほか、発音や文法、使うことばについてもさまざまな違いがあります。



庄内平野と月山。山形県中部にそびえる月山は、県の沿岸部と内陸部をへだてる山のひとつ。となり合う羽黒山、湯殿山とともに出羽三山とよばれ、古くから信仰の対象となってきた。



方言が話されている地域

庄内方言

酒田市や鶴岡市など、日本海に面した庄内地域で話されている。最上川の河口がある酒田市は、江戸時代に日本海側有数の港町として栄えた。庄内平野では米づくりも盛ん。



ベニバナ。加工すると紅色の染料となる。江戸時代には酒田から北前船で上方（現在の大阪府や京都府）へと運ばれた。

酒田市の日和山公園に展示されている北前船の模型。



村山方言

県庁所在地の山形市など、山形盆地を中心とした内陸中部の村山地域で話されている。山形盆地では昼夜の寒暖差をいかした、さくらんぼなどの果物の生産がさかん。



置賜方言

内陸南部の置賜地域で話されている。江戸時代には米沢藩の領地で、米沢市はその城下町として発展した。米沢藩第九代藩主の上杉鷹山は、産業の発展や教育に力を入れた理想のリーダーとして有名。

*北前船…江戸時代半ばから明治時代にかけて、大坂（大阪）と北海道を行き来した船。瀬戸内海・日本海沿岸の各地に寄港し、積み荷を売り買いしながら航行した。

●最上方言
内陸北部の最上地域で話されている。最上地域は周囲を奥羽山脈などの山々に囲まれ、地域の約八割が森林。江戸時代には新庄藩の領地で、新庄市はその中心地として発展した。



新庄市で毎年8月に開かれる新庄まつりは、260年以上の歴史をもつ。はなやかな20台の山車がまちをめぐる。



共通語
すし

庄内方言
しし

内陸方言
すす

米沢市の郷土料理、塩引きずし。塩漬けにしたさけを押しずしにしたもの。昔は新鮮な魚が手に入りづらかった米沢市で、祝い事の際に食べられてきた。

写真出典：農林水産省「うちの郷土料理」

発音の特徴

「じ」と「ず」「じ」と「ず」と「ち」の区別がありません。ただし、「し」は庄内方言では「じ」と発音するところが多く、「ず」は庄内方言では「し」と発音することが多いという傾向があります。

アクセントの特徴 ↓ P.13

庄内方言と最上方言は、ほぼ東京式アクセントです。村山方言と置賜方言は無型アクセントで、「雨」と「飴」をアクセントで区別しません。

文法の特徴

庄内方言と内陸方言では、推測や、可能なことをしめすときの言い方が異なります。たとえば「雨が降るだろう」は庄内方言では「雨降んろー」、内陸方言では「雨降んべー」といいます。

地域によって、語尾もさまざまです。たとえば「そつだ（んだ）」を強い気持ちで伝えたいとき、庄内方言では「んだのー」、最上方言では「んだじゅ」、村山方言では「んだす」、置賜方言では「んだじょ」と言います。

ことばの例

あざぐ

山形県
茨城県
意味
ほかの人のものを、こちやこちや引っこき回して探すこと。

おれの机、あざぐな！
（わたしの机を、引っかきまわさないで！）



うるがす

山形県
東北地方・新潟県

意味
水をひたして水をふくませたり、やわらかくしたりする。
解説
北海道や東北地方で広く使われる。「うるがす」「うるかす」という地域もある。

米うるがしてあげ。
（米を水にひたしておいて。）



おしょうしな

山形県
置賜地域
新潟県・長野県・静岡県

意味
ありがとう。
解説
「しょうし」は「気の毒だ」という意味をもつ「笑止」がもとになっている。同じ内陸でも、最上地域は「ありがとつめ」と、村山地域は「ありがとつめ」といいます。

まぐまぐでゆう

山形県
庄内地域

意味
吐き気がして気持ちが悪い。混乱してあたふたする。
解説
「まぐまぐ」は「気持ちが悪い」「混乱する」という意味。「てゆう」は、擬音語などのあとにつけて「～る」をあらわす。

やまがたばら
山形盆地にある山形市は、きびしい暑さで知られる。

今日はあつちやうい
まぐまぐでゆう…
（今日は暑いから気分が悪い…）



もっけだのー

山形県
庄内地域

意味
申し訳ない。ありがとう。
解説
「申し訳ない」は内陸地方では「ぶじよほ」といいます。

やばっえ！

やばち

山形県
北海道・東北地方

意味
（水にぬれて）気持ちが悪いときに発することば。
解説
「とつせん、冷たい水が体にかかったときにおどろいて言うことば。」やばち「やばっえ」という地域もある。



愛知県

県内の主な方言

愛知県の方言は、県西部の尾張地域で話されている尾張方言と、県東部の三河地域で話されている三河方言の二つに分けられます。三河地域は、東部に広がる美濃三河高原を境に西三河地域と東三河地域に分けられ、三河方言も西三河方言と東三河方言に分けることがあります。

昔、尾張地域は尾張国、三河地域は三河国という別の国でした。そのため方言にも大きな違いがあります。また、愛知県は日本の東西の方言の境目にあたる地域にあるため、方言には東日本と西日本の方言の特徴が入り混じっています。

発音の特徴

尾張方言では「あい」、「うい」、「おい」の音が、それぞれ「えあー」、「うー」、「おえー」になるといふように、母音(あ・い・う・え・お)が続くと、ひとつになつて長くなる音で発音されます。これは岐阜県美濃地域や静岡県と共通の特徴です。ただし尾張地域の瀬戸市では、同じ音がそれぞれ「あー」、「うー」、「おー」と変化します。三河方言で変化するのは



名古屋城と名古屋市の町並み。名古屋城は江戸幕府を開いた徳川家康によって築かれた城。太平洋戦争で焼失したが戦後に再建され、名古屋市のシンボルとなっている。

写真提供：名古屋城総合事務所



方言が話されている地域

尾張方言

名古屋を中心とする県西部の尾張地域で話されている。名古屋市は江戸時代に名古屋城の城下町として発展した地域で、いまでも東海地方の経済の中心地。名古屋市の北東にある瀬戸市は、古くから焼き物の産地として知られる。



毎年冬に設楽町、豊根村、東栄町の各地で開かれる花祭。700年以上の歴史があり、鬼のかっこうをした人が徹夜で神に舞いをささげるなど、さまざまな神事が行われる。写真は豊根村のもの。

三河方言

岡崎市や豊田市、豊橋市など、県東部の三河地域で話されている。岡崎市は江戸時代に東海道*の宿場町として栄えた。八丁味噌という豆味噌発祥の地でもある。豊田市は日本の自動車工業の中心地。山地の広がる内陸部の設楽町などには伝統的な祭りが残る。渥美半島ではあたたかい気候をいかした農業がさかん。

*東海道…江戸時代に整備された、江戸(現在の東京都中心部)と京都をむすぶ街道。



渥美半島にある田原市で収穫されたキャベツの山。田原市ではキャベツや菊などの栽培がさかん。

「あい」の音だけ、「えー」となります。

尾張方言
あめあー



三河方言
あめー

名古屋市を中心に、愛知県の喫茶店でよく食べられている小倉トースト。バターやマーガリンを塗ったトーストに、あずきのあんをのせたもの。上にさらにバターなどをのせる場合もある。

アクセントの特徴 ↓ P. 13

尾張方言と三河方言でアクセントが異なる場合がありますが、どちらも東京式アクセントです。

文法の特徴

「〜だ」と断定するときや、過去のことを言うときは、「いい天気だ」、「買った」のように東日本の方言の言い方をします。しかし否定するとき、命令するときには、「見ん(見ない)」、「起きよ(起きなさい)」のように西日本の方言の言い方をします。

「〜だよね」とよびかけるときは、尾張方言では「だがや」や「だがね」、三河方言では「じゃん」です。

ことばの例

えらい

尾張方言・三河方言
校庭十周走ってえらいわー!
(校庭十周走って疲れたよー!)



こんき

愛知県三河地域
疲れる。苦しい。
「えらい」とは異なり、尾張地域では使われない。

ちんちん

愛知県中部地方
とても熱い状態。
そのやかん、ちんちんだて
気いつけやーよ。
(そのやかん、すごく熱くなっているから気をつけなよ。)



つる

愛知県尾張地域
岐阜県・静岡県
二人、または複数の人で協力して、物を運ぶ。
機を運ぶときなどに使う。三河地域では「する」と言っ。
例文 掃除するてね、机つて。(掃除をするから、机を運んで。)

でら

愛知県尾張地域
意味 すく。とても。



この味噌煮こみうどん、てらうめあー!
(とってもおいしいー!)

ときんときん

愛知県尾張地域
意味 先がとがっている。
よつす。



まわしする

愛知県岐阜県・三重県
準備する。
例文 ちゃっとまわししやあー。(早く準備しなれ。)